会記・Proceedings

魚類学雑誌
50(2): 183–190

2004年度年会のお知らせ

2004年度年会の予定をお知らせします．詳細は2004年5月に出版される魚類学雑誌51巻1号に掲載します．

期　日：2004年9月24日（金）–9月27日（月）
　　24日　編集委員会・評議員会
　　25–27日　研究発表会およびシンポジウム
会　場：琉球大学理学部キャンパス
　　〒903–0213　沖縄県中頭郡西原町千原1

シンポジウム・セッションの申し込みについて

2004年度年会でシンポジウムまたはセッションを計画されている会員は下記の要領で申し込み書類を作成し，郵便で事務局までお送りください．会場および日時の制約上多数の申し込みがある場合には調整を計りますので，あらかじめご了承下さるようお願いします．セッションの主旨については魚類学雑誌45巻2号の会記を参照してください．

申込先：〒041–8611　函館市港町3–1–1
　　北海道大学水産学部内総合博物館
　　日本魚類学会事務局　今村　央
　　TEL: 0138–40–5553
　　FAX: 0138–43–5015
　　e-mail: imamura@museum.hokudai.ac.jp

必要事項：(1) 標題，(2) 企画者氏名，(3) 趣旨説明（1000字以内），(4) 演者と演題，(5) 連絡先住所・氏名（電話，ファックス，e-mail）．なお，標題や演者・演題は暫定案でも結構ですが，内容が明瞭にわかるようにして下さい．ただし，実施時の内容と大きく異なる暫定案を作成することは避けて下さい．

申込締切：2004年1月31日

2003年度第1回幹事会

2003年4月3日（木），於：国立科学博物館分館
出席者：松浦，西田，萩原，岡部，須之部，茂木，今村，中川（学会事務センター）

1. 幹事会のスムーズな移行のために本幹事会より今村氏が庶務として参加することとなった．
2. 報告事項　会計：中川氏（学会事務センター）より2002年度収支決算と2004年度の予算案の報告があった．魚類学会誌とIRのバックナンバーの在庫量について報告された．庶務：日本魚類学会賞の応募状況が報告された．
3. ホームページ製作・運用について，業者の利用が検討された．
4. 魚類学会年会運営マニュアルについて，内容が検討された．

2003年度第2回幹事会

2003年8月8日（木），於：国立科学博物館分館
出席者：松浦，西田，萩原，岡部，川瀬，須之部，茂木，今村，河野，中川（学会事務センター）

1. 報告事項　会計：中川氏（学会事務センター）より2003年度収支概算見込と2004年度改訂予算案の報告があった．庶務：評議員，学会賞選考委員および会長の各選挙結果が報告された．評議員には53名，学会賞選考委員には河野 博氏，塚本勝巳氏，西田 睦氏，細谷和海氏および柳澤康信氏，会長には松浦啓一氏が当選した．また同時に行われた投票により，山内皓平氏から古屋康則氏への編集委員の交代と佐野光彦氏を日本学術会議19期水産研連委員に推薦することが信任された．会長：2003年度年会の申し込み状況について報告された．2006年度年会の開催予定地は東海大学（静岡市）となった．
2. 学会賞選考委員から，選考委員の被選挙権者をこれまでの評議員から一般会員に広げる旨提案があり，細則を変更することとなった．
3. ホームページの管理と年会のWEB登録システムの業者委託と今後の課題について検討された．川瀬氏からホームページ委員会（仮称）の発足について提案があり早急に検討することとなった．
4. 東アジア魚類学会連合（あるいは魚類学者連合）構想について検討された．
5. 河野編集委員長から編集予算の増額について提案があり承認された．

2003年度第3回幹事会

2003年9月10日（水），於：国立科学博物館分館
出席者：松浦，岡部，萩原，須之部，茂木，今村

1. 2003年度年会について　評議員会・総会の議事案および年会の進行について検討した．
2. 学会賞細則について　学会賞細則の改正案について検討した．
3. 会長（2006–2007年度）選挙開票結果　投票総数32，有効票32，無効票0．松浦啓一（9票），中坊徹次（5票），その他3票1名，2票2名，1票11名．以上の結果，松浦啓一氏が選出された．
4. 評議員（2004–2007年度）選挙結果　投票総数286，有効票283，無効票3．53名の評議員が選出された．
北海道地区（4名）：帰山雅秀，後藤　晃，仲谷一宏，矢部

衛；東北地区（3名）：井田　斎，佐原雄二，谷口順彦；関東地区（15名）沖山宗雄，河野　博，坂本一男，佐野光彦，篠原現人，須之部友基，瀬能　宏，多紀保彦，塚本勝巳，西田　睦，林　公義，藤田　清，松浦啓一，宮　正樹，望月賢二；中部地区（10名）：井口恵一朗，岡崎登志夫，小野里　坦，片野　修，木村清志，桑村哲生，白井　滋，鈴木克美，高田啓介，南　卓志；近畿地区（9名）：尼岡邦夫，荒賀忠一，上野紘一，川那部浩哉，幸田正典，田中克，中井克樹，中坊徹次，波戸岡清峰，細谷和海；中国・四国地区（5名）：木下　泉，町田吉彦，水野信彦，柳澤康信，山岡耕作；九州地区（6名）：東　幹夫，岩槻幸雄，小澤貴和，立原一憲，中園明信，吉野哲夫．

5. 学会賞選考委員会（2004–2005年度）選挙の結果　投票総数36，有効票34，無効票2．その結果，河野　博，塚本勝巳，西田　睦，細谷和海，柳澤康信の各氏が選出された．
6. 日本学術会議19期水産学研究連絡委員会（水産研連）委員（佐野光彦氏）の信任投票の結果　承認する34票，承認しない0票，無効2票で承認された．
7. その他　2007年度年会の開催地について検討した．

2003年度　年会

2003年度年会が2003年10月10日（金）–10月13日（月）に京都大学の学部キャンパスにおいて開催され，以下の会合があった．

1. 2003年度第2回編集委員会

10月10日（金）12:00–14:30に編集委員15名が出席して2003年度第2回編集委員会が開かれた．

2. 2003年度第1回評議員会

2003年10月10日（金）15:00–17:30に評議員27名（他に委任状14名）が出席して開催された．議長には桑村哲生氏が選出された．議事は以下の通りであった．(1) 2002–2003年度会務報告，(2) 2002–2003年度編集報告，(3) 2002年度決算報告，同監査報告，および2003年度報告，(4) 2004年度収支予算（案），(5) ホームページ作成およびウェッブ登録の外部委託と電子情報委員会の立ち上げについて，(6) 別刷り費の滞納について，(7) 自然保護委員会に関する報告，(8) 日本魚類学会史委員会に関する報告，(9) 日本学術会議に関する報告，(10) 動物分類学関連学会連合に関する報告，(11) 自然史学会連合に関する報告，(12) 学会賞に関する報告，(13) その他．

以上の議題のうち，2002年度決算報告，同監査報告，および2003年度報告，2004年度収支予算（案）については原案通り承認された．庶務幹事は須之部友基・茂木正人氏に代わり今村央・宗原弘幸氏が，会計幹事は岡部久・萩原清司氏に代わり仲谷一宏・矢部衛氏が就任することとなった．電子情報委員会の立ち上げと，これに伴う会則の一部変更が承認された．学会賞の運営細則1–(1)を「**学会賞選考委員会は評議員による選挙によって個人会員から選出された5名の委員によって構成される．学会賞選考委員長は委員の互選によって決定する**」と改正することが承認された．今後の年会開催地は2004年琉球大学，2005年東北大学，2006年東海大学に決定した．

3. 2003年度総会

2003年10月11日（土）11:15–12:00，出席者70名．議長には桑村哲生氏が選出された．議事は以下の通りであった．(1) 2002–2003年度会務報告，(2) 2002–2003年度編集報告，(3) 2002年度決算報告，同監査報告，および2003年度報告，(4) 2004年度収支予算（案），(5) ホームページ作成およびウェッブ登録の外部委託と電子情報委員会の立ち上げについて，(6) 別刷り費の滞納について，(7) 自然保護委員会に関する報告，(8) 日本魚類学会史委員会に関する報告，(9) 日本学術会議に関する報告，(10) 動物分類学関連学会連合に関する報告，(11) 自然史学会連合に関する報告，(12) 学会賞に関する報告，(13) その他．

以上の議題のうち，電子情報委員会の立ち上げに伴う会則の一部変更が出席者全員の同意を得て可決された．議事終了後，オークション売上金による旅費援助として10名に1人20,000円が授与された．

4. 研究発表会・シンポジウム

口頭発表第1会場・第2会場・ポスター発表第1会場・第2会場に分かれて126題の研究発表が行われた．参加者は開催期間を通じて約420名（内当日参加130名）であった．2題のシンポジウムのうち「カサゴ目魚類の分類と系統」には約70名参加し，「系統地理学：日本産淡水魚類の分布域形成史の新しい理解に向けて」には約70名が参加した．

5. 懇親会

懇親会は10月12日（日）18:00–20:00に200名の参加者で盛大に開催された．

6. 日本魚類学会賞

授賞式が10月11日（土）12:00–12:30に行われた．論文賞は下記の論文が受賞した．

Tomoyasu Sato and Tetsuji Nakabo. 2002. Paraulopidae and *Paraulopus*, a new family and genus of aulopiform fishes with revised relationships within the order. Ichthyological Research, 49: 25–46

奨励賞は新井崇臣氏が受賞し，「耳石解析による魚類の回遊に関する研究」のタイトルで受賞講演が行われ約150名が参加した．

7. オークション

年会会場では書籍等のオークションが行われ，476,800円の基金を得ることができた．

8. 評議員会・総会抜粋資料

会員数

（2003年7月現在）

	国　内	国　外	計
個人会員	1103 (−19)	152 (−1)	1255 (−20)
名誉会員	5	5	10
団体会員	94 (−2)	0	94 (−2)
賛助会員	2	0	2
購　　読	51 (+1)	20 (+1)	71 (+2)
寄　　贈	5	12 (+1)	17 (+1)

（　）内は2002年7月現在に対する増減．購読数は和文誌購読のみ．

会員数および入退会者数の推移

年度	国内個人会員			国外個人会員			退会処分
	会員数	入会	退会	会員数	入会	退会	
1991	913	30	12	211	8	1	17
1992	920	47	26	214	5	3	7
1993	940	55	18	222	8	7	18
1994	1002	30	10	176	7	6	58
1995–1996	1056	131	41	192	20	6	13
1996–1997	1106	74	21	177	9	2	34
1997–1998	1121	70	27	170	9	2	55
1998–1999	1139	72	29	172	11	3	29
1999–2000	1120	61	44	168	9	3	43
2000–2001	1126	69	43	157	13	5	44
2001–2002	1122	58	38	153	9	0	35
2002–2003	1103	53	43	152	15	8	36

1994年度以前の会員数は3月上旬，入退会者数は3月末に集計．1995–1996年度の集計期間は1995年1月–1996年7月；1996–1997年度の集計期間は1996年8月–1997年7月．1997–1998年度の集計期間は1997年8月–1998年7月；1998–1999年度の集計期間は1998年8月–1999年7月．1999–2000年度の集計期間は1999年8月–2000年7月；2000–2001年度の集計機関は2000年8月–2001年7月．2001–2002年度の集計期間は2001年8月–2002年7月；2002–2003年度の集計期間は2002年8月–2003年7月．

2002–2003年度編集報告

1) 投稿論文

2002年：104篇（英文誌83篇，和文誌27篇）

投稿論文内訳

英文誌：分類23; 系統6; 形態6; 分布8; 行動生態3; 生態一般18; 仔稚魚11; 遺伝5; 生理3; 組織0

和文誌：分類5; 系統1; 形態1; 分布6; 行動生態0; 生態一般6; 仔稚魚3; 遺伝2; 生理1; 組織2

2003年8月31日現在：69篇（英文誌55篇，和文誌14篇）

投稿論文内訳

英文誌：分類19; 系統4; 形態7; 分布2; 行動生態0; 生態一般9; 仔稚魚6; 遺伝7; 生理1; 組織0

和文誌：分類3; 系統0; 形態1; 分布2; 行動生態1; 生態一般3; 仔稚魚2; 遺伝0; 生理2; 組織0

2) 出版に要した期間

英文誌（48巻3号から50巻2号まで）

受付から出版までの日数

最短期間：180日（6カ月）；最長期間：978日（31カ月）；平均期間：388日（13カ月）．

和文誌（48巻2号から50巻1号まで）

受付から出版までの日数

最短期間：156日（6カ月）；最長期間：537日（18カ月）；平均期間：292日（10カ月）．

日本魚類学会2002年度収支計算書

（2002年1月1日から2002年12月31日）

収入の部　（単位：円）

科目	予算額	決算額	予算－決算
会費	12,250,000	13,097,431	−847,431
正会員会費	10,210,000	10,880,000	−670,000
団体会員会費	1,070,000	1,152,000	−82,000
賛助会員会費	40,000	20,000	20,000
外国会員会費	930,000	1,045,431	−115,431
購読料（バックナンバー収入含）	200,000	114,980	85,020
広告料収入	240,000	210,000	30,000
著者負担印刷代	1,000,000	1,017,849	−17,849
刊行助成費	2,400,000	2,700,000	−300,000
雑収入	200,000	825,593	−625,593
入会金	50,000	58,000	−8,000
オークション積立金取崩収入	200,000	200,000	0
名簿積立金戻入収入	400,000	400,000	0
会誌発行引当金戻入収入	600,000	600,000	0
当期収入合計	17,540,000	19,223,853	−1,683,853
前年度繰越金	9,224,761	9,224,761	0
合計	26,764,761	28,448,614	−1,683,853

支出の部　（単位：円）

科目	予算額	決算額	予算－決算
会誌発行費	10,200,000	10,184,327	15,673
英文誌	7,200,000	7,003,500	196,500
和文誌	2,500,000	2,538,067	−38,067
編集費	500,000	642,760	−142,760
名簿作製費	400,000	413,910	−13,910
会誌発送費	950,000	951,300	−1,300
役員会合費	50,000	92,148	−42,148
シンポジウム費	200,000	0	200,000
消耗品費	50,000	0	50,000
通信費	400,000	296,180	103,820
諸印刷費	100,000	64,590	35,410
年会運営費	250,000	250,000	0
年会参加補助金	200,000	200,000	0
人件費	20,000	0	20,000
旅費	900,000	555,810	344,190
業務委託費	2,900,000	2,692,740	207,260
什器備品費	100,000	0	100,000
協賛金	50,000	52,269	−2,269
雑費	300,000	109,017	190,983
国際会議繰入金	10,000	3,735	6,265
会誌発行引当金	600,000	675,000	−75,000
名簿作製積立金	200,000	200,000	0
自然保護委員会積立金	—	312,166	−312,166
雑損失	0	0	0
予備費	100,000	46,685	53,315
当期支出合計	17,980,000	17,099,877	880,123
次年度繰越金	8,784,761	11,348,737	−2,563,976
合計	26,764,761	28,448,614	−1,683,853

貸借対照表

2002年12月31日
(単位：円)

借方 科目	金額	貸方 科目	金額
流動資産		流動負債	
預け金	3,270,080	未払費用	1,961,740
普通預金	2,316,596	前受会費	6,198,780
定期預金	8,020,857	会誌発行引当金	675,000
未収入金	296,000	名簿作製積立金	200,000
前払費用	6,592,890	国際会議繰入金	1,551,409
定期預金	2,580,904	オークション積立金	829,495
		自然保護委員会積立金	312,166
		次年度繰越金	11,348,737
		前年度繰越金	9,224,761
		当年度収支差額	2,123,976
合計	23,077,327	合計	23,077,327

財産目録

2002年12月31日
(単位：円)

資産の部

科目	摘要	金額
流動資産		
預け金	(財)日本学会事務センター	3,270,080
普通預金	UFJ信託銀行本店営業部	2,316,596
定期預金	みずほ銀行本郷支店	8,020,857
未収入金		296,000
	著者負担印刷代	236,000
	広告料	60,000
前払費用		6,592,890
	英文誌 Vol. 50 No. 1~4 購読料	6,510,000
	通信費(2003年度会費請求書等郵税)	76,640
	会費口座振替通知料	6,250
定期預金		2,580,904
	みずほ銀行本郷支店	200,000
	UFJ信託銀行本店営業部	2,380,904
合計		23,077,327

負債の部

(単位：円)

科目	摘要	金額
流動負債		
未払費用		1,961,740
	和文誌 Vol. 49-2 会誌作製費	1,346,440
	英文誌 Vol. 49-4 カラー頁代	262,500
	名簿作製金	352,800
前受会費	2003年度以降分会費	6,198,780
会誌発行引当金		675,000
名簿作製積立金		200,000
国際会議繰入金		1,551,409
オークション積立金		829,495
自然保護委員会積立金		312,166
合計		11,728,590

繰越金

(単位：円)

科目	摘要	金額
前年度繰越金		9,224,761
当年度収支差額		2,123,976
合計		11,348,737

試　算　表

	2003年度予算額		2003年6月30日現在	
預け金			4,572,559	
小口現金			30,000	
普通預金			2,316,611	
定期預金			8,021,089	
未収入金			94,500	
前払費用			0	
立替金			−136,055	
定期預金			2,580,904	
未払費用				0
前受会費				63,000
会誌発行引当金				675,000
名簿作製積立金				200,000
国際会議繰入金				1,551,409
オークション積立金				829,495
自然保護委員会積立金				112,166
前年度繰越金				11,348,737
小計			17,479,608	14,779,807
会費		12,640,000		11,368,543
正会員会費		10,600,000		9,470,000
団体会員会費		1,090,000		852,000
賛助会員会費		40,000		80,000
外国会員会費		910,000		966,543
購読料		100,000		83,400
広告料収入		210,000		0
著者負担印刷代		1,000,000		119,364
刊行助成費		2,700,000		0
雑収入		200,000		18,307
入会金		50,000		29,537
自然保護委員会積立金戻入収入		0		200,000
オークション積立金取崩収入		200,000		0
名簿積立金戻入収入		0		0
会誌発行引当金戻入収入		675,000		0
会誌発行費	10,200,000		6,956,750	
英文誌	7,200,000		6,798,750	
和文誌	2,500,000		0	
編集費	500,000		158,000	
名簿作製費	0		0	
会誌発送費	950,000		452,150	
役員会合費	50,000		0	
シンポジウム費	200,000		0	
消耗品費	50,000		0	
通信費	400,000		126,770	
諸印刷費	150,000		12,990	
年会運営費	250,000		0	
年会参加補助金	200,000		0	
学会賞費	100,000		0	
各種委員会活動費	200,000		200,000	
人件費	20,000		0	
旅費	700,000		385,355	
業務委託費	2,900,000		945,000	
什器備品費	100,000		0	
協賛金	50,000		0	
雑費	200,000		40,335	
国際会議繰入金	10,000		0	
会誌発行引当金	675,000		0	
名簿作製積立金	200,000		0	
雑損失	0		0	
予備費	100,000		0	
小計	17,705,000	17,775,000	9,119,350	11,819,151
前年度繰越金		8,784,761		
次年度繰越金	8,854,761			
合計	26,559,761	26,559,761	26,598,958	26,598,958

日本魚類学会2004年度収支予算
（2004年1月1日から2004年12月31日）

収入の部　（単位：円）

科目	03年度予算額	04年度予算額	備考
会費	12,640,000	12,420,000	
正会員会費	10,600,000	10,400,000	1,095名×10,000円×92%+3%（過年度分）
団体会員会費	1,090,000	1,070,000	94団体×12,000円×95%
賛助会員会費	40,000	40,000	2社×20,000円×100%
外国会員会費	910,000	910,000	*1
購読料（バックナンバー収入含）	100,000	100,000	当年度発行和文誌売上，バックナンバー売上収入
広告料収入	210,000	180,000	6社／年掲載分
著者負担印刷代	1,000,000	1,000,000	
刊行助成費	2,700,000	3,200,000	平成15年度科研費補助金金額参照
雑収入	200,000	200,000	
入会金	50,000	50,000	
自然保護委員会積立金戻入収入	0	0	
オークション積立金取崩収入	200,000	200,000	
名簿積立金戻入収入	—	700,000	
会誌発行引当金戻入収入	675,000	800,000	平成15年度科研費補助金3,200,000円×1/4引当金
当期収入合計	17,775,000	18,850,000	
前年度繰越金	11,348,737	11,418,737	
合計	29,123,737	30,268,737	

*1 {110名×(7,000円−350円)×80%}+{43名×(10,000円−500円)×80%}

支出の部　（単位：円）

科目	03年度予算額	04年度予算額	備考
会誌発行費	10,200,000	10,200,000	
英文誌	7,200,000	7,000,000	IR Vol. 51-1〜4（650万円＋予備）
和文誌	2,500,000	2,700,000	魚雑 Vol. 51-1, 2
編集費	500,000	500,000	
名簿作製費	—	1,000,000	調査・版下・印刷経費
会誌発送費	950,000	950,000	IR Vol. 51-1〜4, 魚雑 Vol. 51-1, 2発送郵税等
役員会合費	50,000	50,000	
シンポジウム費	200,000	200,000	2004年度年会事務局へ
消耗品費	50,000	50,000	
通信費	400,000	400,000	
諸印刷費	150,000	150,000	
年会運営費	250,000	250,000	2004年度年会事務局へ
年会参加補助金	200,000	200,000	2004年度年会参加補助金
年会参加・発表Web登録経費	—	300,000	2004年度年会参加・発表登録
ホームページ維持・更新費	—	200,000	新規立上げ・維持・更新費
学会賞費	100,000	100,000	年会時講演招待旅費・宿泊費
各種委員会活動費	200,000	200,000	各種委員会へ
人件費	20,000	20,000	
旅費	700,000	950,000	役員会（北大）・編集委員会・学会賞選考委員会旅費
業務委託費	2,900,000	2,900,000	学会事務センター業務委託費
什器備品費	100,000	100,000	年会発表プロジェクターレンタル費用
協賛金	50,000	60,000	ITZN, 自然史学会連合，動物分類学会連合分担金
雑費	200,000	300,000	
国際会議繰入金	10,000	10,000	
会誌発行引当金	675,000	800,000	平成15年度科研費補助金額参照
名簿作製積立金	200,000	200,000	
雑損失	0	0	
自然保護委員会積立金	0	0	
予備費	100,000	100,000	
当期支出合計	17,705,000	19,690,000	
次年度繰越金	11,418,737	10,578,737	
合計	29,123,737	30,268,737	

注）03年度の前年度繰越金は02年度決算額による．

2003年度日本魚類学会自然保護委員会

日　時：6月22日9:30–12:00
場　所：大阪市立自然史博物館会議室
出席者：松浦，後藤，瀬能，鈴木，酒井，森，渡辺，小早川，丸山，前畑，吉野

［議事］

1. 第3回委員会（2002年10月13日）以降の活動報告について

1) 公開シンポジウム「身近な自然環境の復元」の総括

参加者数は参加者名簿上の集計で147人.

学会補助200,000円の予算に対して，総額200,057円の支出があり，残金は－57円.

今後の運営は会場担当者を含む実行委員会制で行い，役割分担を明確にする.

要旨集は実費負担として参加者に販売する.

参加者層やニーズの把握のため，アンケート調査を実施する.

2)「川と湖の侵略者―ブラックバス」（厚生社厚生閣）の印税支払いについて

印税400,000円は2002年12月に支払われ，著者への支払い分200,000円を除いた残金200,000円は緊急の支出に備えてプールする.

※5月の時点で250部ほど残がある，秋口に重版予定.

3)「ユニマット不動産による西表リゾート開発の中断と環境影響評価の実施を求める要望書」

2003年6月12日付けで環境大臣，文化庁長官，沖縄県知事，竹富町長，ユニマット不動産代表取締役社長宛に送付するとともに，学会HPで内容を公開した.

今後，情勢を見守りながら対応していく.

4)「2003年度内水面漁業権免許切り替えに関する要望書」について

2003年6月12日付けで山梨県知事宛に送付するとともに，学会HPで内容を公開した.

地元団体に連携を求めてはどうか．情勢を見守りながら今後も対応していく.

5) 各部会での活動状況について

外来魚問題検討部会

※水産庁の「外来魚問題に関する懇談会の中間報告」への対応について議論された.

希少海産魚問題検討部会

特に干潟について情報収集の段階にある.

環境省RDBに海水魚を取り上げるよう意見書作成する.

2. 今後の活動方針と計画について

1) 次回シンポジウムの企画と取り組み

企画案を持っている委員は10月の委員会で提案できるように準備を進める.

2) 研究材料として魚類を使用する際のガイドライン（案）

学会ホームページ上で公開し意見を求めたが，特に反対意見等はなく，問題がないと判断された.

3) 各種委員会役職リストについて

自然保護行政に関連する委員会等に当学会自然保護委員会委員のメンバーがどの程度関係しているのかを把握するためのアンケート調査を行い，役職リストを作成する.

4) 自然保護委員会としての意見書等作成の体制作りについて

当面はこれまで通りの体制で行い，要望があれば積極的にあげてもらいたい.

5) 委員会の組織について

河野氏の辞任に伴い，新たに杉山秀樹氏（秋田県水産振興センター）へ打診する.

6) その他

・分類学会連合シンポジウム（移入種と生物の攪乱，1月10日，科博分館）への演者の派遣について松浦より経過説明と演者派遣の要請があった.

・放流に関するガイドラインの必要性について森より説明と要請があった.

・中央環境審議会移入種対策小委員会の動向について瀬能より説明があった.

6月21日に開催された日本魚類学会公開シンポジウム「身近な水辺環境の復元―水田や里山の魚たちを未来へ」についての報告

去る6月21日に大阪市立自然史博物館講堂において魚類学会と大阪市立自然史博物館との共催の公開シンポジウム「身近な水辺環境の復元―水田や里山の魚たちを未来へ」が開催された.

当日の参加者は約150名．講演・パネルディスカッション終了後の意見交換の場では，各地域での水辺環境を保全する活動の大切さと問題点，地域の子どもたちが参加する保全活動のあり方，破壊された水辺環境はどこまで復元可能かなど，活発な論議が展開された.

以下に，シンポジウムのプログラムを報告する.

<プログラム>

開催にあたって (13:00–13:05)
……那須孝悌（大阪市立自然史博物館館長）

第I部 基調講演 (13:05–14:15)

1) 魚類の生物多様性の意味するもの
……後藤　晃（北海道大学）

2) 身近な水辺環境の保全と復元
……小出水規行（農業工学研究所）

質　疑 (14:15–14:30)

休　憩 (14:30–14:40)

第II部　パネルディスカッション

「里川の魚たちをいかに守るか」(14:40–16:00)

コーディネーター：森　誠一（岐阜経済大学）

パネリスト：

地域活動関係：鈴木康之（山形県遊佐町）

教育関係：加納義彦（大阪清風高校）

行政関係：松田輝治（福井県大野市教育委員会）

研究機関関係：渡辺勝敏（京都大学）・小出水規行（農業工学研究所）

質疑応答 (16:00–16:25)

閉会にあたって……松浦啓一（日本魚類学会会長）

（魚類学会自然保護委員会）